

会 議 名	第1回港区幼稚園教育振興検討会
開 催 日 時	令和7年2月6日(木) 18時~19時10分
開 催 場 所	港区役所9階 研修室
委 員	A委員(委員長)、B委員(副委員長)、C委員、D委員、E委員、F委員、G委員、H委員、I委員、J委員、K委員、L委員
事 務 局	教育推進部長 教育推進部教育長室長 教育推進部教育長室教育推進担当係長 学校教育部学務課長 学校教育部学務課学校計画担当係長
会 議 次 第	1 委員・事務局の紹介 2 委員長・副委員長の選任 3 港区幼稚園教育振興検討会について 4 議題 (1) 港区の幼稚園の現況等について (2) 検討の進め方等について 5 その他
配 布 資 料	資料1 港区幼稚園教育振興検討会委員名簿 資料2 港区幼稚園教育振興検討会設置要綱 資料3 港区幼稚園教育振興検討会について 資料4 幼児人口及び幼稚園園児数の推移について 資料5 ようちえんでまってるよ(港区の幼稚園紹介パンフレット) 資料6 検討の進め方等について 参考資料 今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会 最終報告<概要・本編>
主要な意見等	
C委員	2 委員長・副委員長の選任 要綱を見ると、会議体自体は平成25年度に設置されている。今回、このような形で港区幼稚園教育振興検討会が実施される経緯を知りたい。
事務局	もともとは中長期的な視点で幼稚園教育振興の在り方を公私立幼稚園で検討するため、平成25年度に立ち上げた会議体。当時は最終的に「港区幼稚園教育振興方針」を定めた。このなかでは、当時の幼稚園教育の状況や公私立幼稚園が連携するための諸条件がまとめられている。後日資料にまとめて提示したい。
事務局	平成25年度のときは、学識経験者や私立幼稚園代表者、教育委員会事務局が委員を務めて検討を進めた。今回は幼稚園教育の振興に向けて、さまざまな立場の方からご

	<p>意見を聞いて検討を進めるため、保護者代表の皆様も委員としてご参加いただいている。</p> <p>○委員長は A 委員に決定。 ○A 委員からの指名により、副委員長は B 委員に決定。</p> <p>3 港区幼稚園教育振興検討会について ○資料 3 を用いて事務局から説明。</p>
C 委員	<p>私立幼稚園はこうした区主催の会議に全面的に協力をし、資料作成に係る情報を提供している。その中には広く一般に公開することを想定していない情報もある。私立幼稚園の了承のないものはホームページに掲載しないということによいか。</p>
事務局	<p>そのように対応する。ホームページで公表する際には事前にご相談する。</p> <p>4 (1) 港区の幼稚園の現況等について ○資料 4,5 を用いて事務局から説明。</p>
C 委員	<p>資料 4 「1 幼児人口の推移」について、0-5 歳人口ではなく、幼児教育を受ける 3-5 歳の推移に着目してほしい。また、文中にある人口推計後半年とはどういうことか。</p>
事務局	<p>3-5 歳人口はグラフのグレーになっている部分。令和 2 年に 8,614 人まで増加し、その後減少に転じている。令和 9 年まで減少した後にも増加する推計だが、令和 2 年の水準まで回復するのは令和 16 年。令和 16 年は令和 7 年から令和 17 年までの推計の後半部分に当たることから、資料では人口推計後半年と表現している。</p>
C 委員	<p>資料 4 裏面「施設種別ごとの園児数の推移」について。その他幼児数の割合が一定数を占めているが、ここにはインターナショナルスクールや民間の認可外保育施設に通う幼児が相当数いるという捉え方でよいか。</p>
事務局	<p>そのような捉え方で問題ない。</p> <p>5 その他 ○今後の検討を進めるにあたり、各委員が特に関心のある分野（ICT の活用、特別な配慮を要する幼児への指導、預かり保育、満 3 歳以上時の教育、地域における幼稚園の役割等）や検討会参加に向けた意気込み等について発言。</p>
G 委員	<p>3 人の子育てをしており、小学生の上の 2 人は保育園に通わせ、3 人目を現在区内私立幼稚園に通わせている。保育園と幼稚園の違いを、身をもって感じている。幼稚園教育がどれほど地域にインパクトを与えられるかについて色々と考えていきたい。</p>
H 委員	<p>高校生、中学生、小学生、幼稚園児の 4 人の子育て中。自分自身は、区内私立幼稚園</p>

	<p>を卒園し、幼稚園教諭、保育士の経験がある。最近、幼少期から子どもに勉強をさせたいと考えている親が多いと感じる。特に英語教育への関心が高く、自分の周りもインターナショナルスクールに通わせている人が多い。幼児教育の無償化により補助金が出るため、費用面でもインターナショナルスクールに通いやすくなった。幼児期の子どもの育ちに必要な経験は、そうした勉強の側面だけではない。幼稚園存続に向け幼児教育の大切さを訴えていきたいと考えている。</p>
I 委員	<p>子どもを0-2歳は区立保育園に通わせたが、よくしてもらった。小規模で目が届きすぎていたとも感じた。社会に出ればそのように目をかけられることもないため、いろいろな環境に適応し自立してほしいと考えた。幼稚園のほうが生活や教育に一貫性があると思い、区内私立幼稚園に入園させた。共働きのため、保育園のほうが親としてはありがたいところだが、幼稚園に通わせてよかったと思うことを伝えるとともに、保育園しか選べない親の選択肢が広がればいいと思い検討会に参加している。</p>
J 委員	<p>昨年9月に子どもを保育園から幼稚園に転園させた。その際、ホームページやSNSに情報がなく、ブログなどにも魅力を感じなかったため、情報発信を多くしてほしいと考えている。</p>
K 委員	<p>3-5歳は、幼稚園教育要領、保育所保育指針で同じ幼児教育が受けられることになっているが、いま皆さんの話を聞いていると現実とは違うところがあるのかなと感じた。子どもの成長をしっかりと考えながら、時間の関係で幼稚園に通わせられない家庭の選択肢を増やすためにも預かり保育について話し合っていきたい。</p>
C 委員	<p>港区は公私立ともに歴史があり、全国の組織をリードする現場の研究者も多数輩出してきた。そういう意味でも港区の幼稚園教育というのは日本全国の中でも非常に優れている。一方で、全国的にみると幼稚園教育が次々に失われており、認定こども園化が進んでいる。その中であって、東京や港区はそこまで進んでいない。区は保護者が子どもを預けやすくするように、預かり保育の充実を考えているようだが私は反対である。幼稚園は幼稚園らしく子どもの育ちを保障し、それを徹底的に追及していくのが我々の任務である。港区長に対しても、区立も私立も学校教育法第1条に基づく学校として幼稚園の振興に協力してほしい旨要望を出しており、区長も了承したというお話をいただいている。幼稚園にとって最大の問題は人材の確保である。保育士には家賃補助があるのに、幼稚園教諭にはそういった補助がない。人材確保のために区として尽力をいただきたい。</p>
D 委員	<p>資料に示された5つの課題について、どれも関心がない。むしろ参考資料の2章に記されていることこそ大事なのだと受け止めている。預かりの時間を長くしても子どもにとってつまらない時間だったらほとんど意味がないし、むしろ逆効果もあるのではと思う。自分は保育園で生まれ育った。保育園で良質な保育教育が行われていることは肌身をもって知っているため、保育園より幼稚園のほうが良いということはないと思うし、保育園の保育ニーズはある。港区の幼児教育は全国でもレアなケースであり、これを大事にしていかなければならない。幼稚園が取り組むべきは、子どもの生活の</p>

E 委員	<p>質、幼児期にどれだけ幸福な生活を確保するかであり、それを検討会で語り合えることが一番大事。その結果、幼稚園就園率が上がればと思っている。</p> <p>地域における幼稚園の役割について検討を進めたい。自分の園では、幼稚園が地域の子どもたちの遊びの場や教育の場であるということが建学の精神。地域の幼稚園として、親を育てていきたいという気持ちがある。また、子どもが子どもを育てるのがとても大事な時間であり、上の子が下の面倒をみるというコミュニティが幼稚園でできればと思う。C委員と同様に、教員の確保が課題と感じている。</p>
F 委員	<p>どの項目もしっかり見ていく必要がある。その中でも、特に預かり保育と満3歳児以上児の教育と幼稚園教育の接続については、区立幼稚園としてしっかり検討していきたい。区立幼稚園は、幼稚園教育要領に基づき幼児教育を進め、研究の実績もある。今後もしっかりと地域の幼稚園として幼児教育を進めたいと思っている。幼稚園は園庭も広々としていて、素晴らしい施設を兼ね備えているが、未就園児の保護者が見学に来てもお迎えの時間などの問題で入園は難しいと諦める方がいる。</p> <p>そうした方にも、区の財産である区立幼稚園に通ってもらえるようにしたい。</p>
L 委員	<p>歴史のある公私立幼稚園では、保幼小の接続・連携に協力して取り組んできた。教育の質を維持しつつ、子育ての支援も行っていく必要がある。園の教育活動は当然子どもが中心ではあるが、保護者同士の交流、通わせてよかったと思われるような運営をするためには、預かり保育、地域に開かれた幼稚園は一層充実していく必要があると考えている。利用しやすい環境を整えていくことを一緒に考えていきたい。</p>
A 委員	<p>幼稚園の伝統を守り、教育の質を確保しながら時代の流れを見て、行政と連携しながら先を展望するのが大切と考える。皆さんの意見では、「預かり保育」と「地域における幼稚園の役割」が多かったと感じている。その方向で検討を進めるのはどうか。</p>
C 委員	<p>その方向性には異議がある。預かり保育に焦点を当てるような会議には参加したくない。幼稚園は保育園と競争しようとは考えていない。それぞれの役割を果たせばよい。保育園が幼稚園と同等の幼児教育が提供できているといえず、区内の保育園の9割には園庭がない。これらの問題を解決し、時間の制約がある親の子どもは保育園に通わせるのがいい。どこの幼稚園も預かり保育は今も3時間程度実施している。もっとやれというのは間違っている。</p>
A 委員	<p>では、預かり保育については再度確認することとし、地域における幼稚園の役割を重点とすることについて異論はないか。</p>
全委員	<p>異論なし。</p>
事務局	<p>それぞれの発言をお聞きし、委員の皆様の思いや関心は、ICTの活用、特別な配慮を要する幼児への指導、預かり保育、満3歳以上児の教育、地域における幼稚園の役割の5つの視点のみならず、幅広く多岐に渡っていることがわかった。今後事務局で何</p>

に重点を置きどのように進めていくかを今一度正副委員長とご相談しながら決めていきたい。

【事務局より】

○第2回検討会は3～4月を予定。